



かえで



編集 社会福祉法人江東楓の会
発行所 江東区東砂6-2-14-3F

編集責任者 理事長 伊藤 善彦
TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事 原 隆典

まだまだ寒い日が続いておりますが、木蓮が咲き始めるなど少しずつ春に向かっていくことも実感できる陽気となってまいりました。

今年度を振り返ると、昨年初頭より私たちの生活に大きく影響を与えている新型コロナウイルスの感染拡大について、さまざまな面において対応を余儀なくされた1年であったと思います。

このような状況下において、当法人におきましては、いかにして利用者の皆様の安全を担保しながら、事業運営を行うかについて常に考え実践して参りました。利用者の皆様につきましては自粛等をお願いすることもあり、ご迷惑をおかけいたしました。皆様のご協力もあり、大きく混乱が生じることなく、今日を迎えることができております。

障害者福祉については、障害福祉サービスの報酬改定が検討されており、虐待防止の更なる推進や身体拘束の適正化、感染症や災害への対応力の強化が挙げられております。いずれにおいても重要な取り組みとなるため、体制整備を進めていくだけでなく、実践へと活かせるように努めて参りたいと考えております。

最後に、令和3年度4月より

江東区あすなろ作業所の運営を当法人が担うことに伴い、ホームページならびにパンフレットを更新する予定となっております。是非、ご一読ください。





第 45 回会報テーマは全事業所

『今年度を振り返って』とさせていただきます



江東区亀戸福祉園 支援員 石村哲郎

コロナウイルス感染症で4月には緊急事態宣言が発出され、利用の制限や自粛が重なり、全員揃うことが少なく、また、新年度始めの行事である入園式が全体活動から各グループでの祝う会へと変更になり、行事の規模縮小や中止が相次ぎました。特に園祭や宿泊行事といった大きな行事の中止により、外部の方と関わること、外出の機会がなくなってしまったことで、非常に寂しい年になってしまったなという気持ちです。このような状況の中で、どんな形であれば楽しむこと、満足することが出来るかを今まで以上に日々考えて仕事に取り組んできました。その結果、園祭については「かめ亀ウィーク」と称し、お祭り気分を味わえるよう、1週間を通しグループごとでお祭りの雰囲気を感じられるレクリエーションや、給食では、お祭りメニューのフランクフルトや焼きそばを提供し、今までとは違った形式となりましたが、皆さん楽しんで参加して頂けました。

日々の運営に関しましては、換気と消毒を徹底し、介助時にはフェイスシールドの着用をおこない予防に取り組んでいます。次年度に向けて安心・安全に過ごせるよう、今年度の経験を活かしながら職員一同頑張っていきたいと思いをします。



ワークセンターつばさ 支援員 中村 夢夏

ワークセンターつばさでの仕事が8ヵ月となり、もうすぐで1年が経とうとしています。未知の世界に飛び込み、右も左も分からない中での仕事は、戸惑いでいっぱいでした。そんな中でも優しく色々な話題を投げかけてくれる利用者の方々や、ユニークな職員の皆様に支えられ、刺激的な日々を過ごせています。

昨今の世界情勢で1年の様々な行事が中止となりましたが、施設内での談話やカードゲームを通して利用者の方々と触れ合いたくさんのコミュニケーションを図ることが出来たと思います。作業だけの毎日となりましたが、各々が様々な工夫を凝らし、つばさでの生活に楽しさを見出していることに驚かされました。コロナ禍で受注量が減少し、余暇活動（DVD鑑賞や散歩等）が続く日々がありましたが、その中で利用者の方々の好みや思いに触れることが出来ました。

今年度は利用者・職員の方々とのスキンシップを図りつつ、分からない事を覚えることに従事してきました。来年度は視野を広げ支援についてより深く考え、信頼関係を築いていきたいと思いをします。

第三あすなろ作業所 支援員 高橋 絵里



今年度を振り返ると、今年度は「新型コロナウイルス」に尽きる1年だったのではないかと思います。私自身としては、6月に第三あすなろ作業所に入職し、利用者との関わりから受注作業まで、一つひとつ全てが初めての経験でした。これまで作業所での経験はなく、入職した当初は利用者との関わり方や慣れない作業に戸惑いを感じる事が多かったのですが、利用者の方から作業を教わり、日々の関わりを通じて笑顔で話しかけて下さる事も増え、少しずつ環境にも慣れてきたと感じています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、例年より受注作業が減少傾向にあり、宿泊や外出等の行事も実施出来ない事が殆どで、利用者には不便な思いや不安を感じさせてしまう事も多かったと思います。その中で、少しでも利用者を楽しい時間を作れるよう、昼休みの散歩の実施や少人数での外食、リモートでの忘年会等、三密を避けた取り組みを職員一同で企画しました。

まだまだ先行きの見えない状況で不安を感じる日々ではありますが、引き続き換気や消毒等の感染症対策を行い、皆さんが安心して過ごせるように取り組んでいきたいと思っています。



若竹作業所 支援員 佐藤史仁

[COVID-19]聞きなれない言葉です。これは新型コロナウイルスの正式名称です。

今年度は、常にコロナ、コロナと生活しづらい1年になってしまったと思います。普段制限されないことが制限され、不自由さが目立ち、いかに今までが自由に過ごしていたのかと思われ知られることも多かったと思います。2002年にはSARS、2012年にはMERSと、どれもコロナウイルスであり10年をおいての感染症の流行となりました。

しかし、このような時だからこそ、良かったことも考えてみてはと思います。

自粛期間があり、利用者方へ通所の制限をさせていただくことがありました。その自粛の際には、ご家庭へ連絡を入れることで、普段お話しさせていただく機会の少ない中で、今回の事をきっかけにお時間をいただきご家庭での様子などを伺うことが出来ました。作業所では知ることが出来ない一面も教えていただき関係性の構築としての1つとなったように思います。

また、作業量については減少傾向にありましたが、1つの作業に時間をかけられることから、日頃携わらない工程に取り組んでいただく機会も設けることが出来、各利用者のスキルアップにもつながったのではないかと感じました。

常に前向き、その日その日での楽しいことを必ず見つけて生きていく、と日々利用者の皆さんから学んでいます。1日の終わりに、ふと楽しかったことを思い出すことが出来たら、きっと明日も楽しい1日になると思っています。自粛前は良かったなと感じる事も多いと思いますが、先を見据えて日々大切に過ごして行きましょう。時間は進む事しかできないのですから。



高齢障害者通所施設さくら 施設長 桑島直之

令和2年度は前年度末より新型コロナウイルス感染症の流行が全世界的に広がっていき、社会全体が騒然と、そして混乱する中でのスタートとなりました。さくらでも令和2年度早々に国より発令された緊急事態宣言を受けた形で、利用者、ご家族に通所の自粛へのご協力をお願いする形となりました。この緊急事態宣言やその後の新しい生活様式に則った日々の生活、施設運営など何から何まで未体験のことばかり…1年を通して戸惑い、困惑が続いてきました。手探り状態での1年間で過ぎていった中で、職員、利用者にも新しい生活様式が定着していきました。これまでは、皆で和気あいあいと話しながらの食事時間が一転、マスクを外している時間帯は静かに黙々と食事をする事やマスクの着用、手洗い、うがいを徹底すること、他者との距離を可能な限りとるなどです。

まだまだこの感染症が落ち着くには時間がかかることと思われまます。皆さんの安全を守り、そしてそのうえで日々を楽しむことのできるような“工夫”も行っていける来年度となるようにしていきたいと考えています。



江東区リバーハウス東砂 支援員 片桐 湖生

リバーハウス東砂に異動をしてもうすぐ1年が経とうとしています。年度当初はコロナ禍で緊急事態宣言が発令されているということもあり、利用自粛のご協力をしていただいている中、グループホームの利用者の方、皆さんとしっかり関わることが出来たのは6月頃からでした。作業所での経験しかなく、入浴介助や食事介助などの生活の場の支援…と考えたとき色々と不安はありましたが、先輩方にたくさんのフォローをしていただき、今日に至ります。

コロナの影響で、昨年度より利用を控えられる利用者の方もいらっしゃいましたが、短期入所は地域からたくさんの利用者の方が利用されました。ほとんどの利用者の方は初対面で、「どんな方だろう？」と戸惑うことはありましたが、何度も利用されていくうちに少しずつですが、自分なりの関わり方を見つけられたように思います。「ありがとうございました」「またね」というお言葉をいただくこともあり、嬉しい気持ちにもなりました。

私自身は来年度からは第三あすなろ作業所へ異動になります。この1年間で学んだ生活の場の支援を活かせるように、また、「グループホームってどんなところ？」、「短期入所って何？」と気になっている利用者の方々に、色々お伝えしていきたいと思ひます。



楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田俊彦

皆さまにおかれましては、コロナ禍で大変な生活を強いられていると思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

今年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年でした。最初の緊急事態宣言を受け、ヘルパーセンターの大きな柱でもある余暇支援を自粛せざるを得ず、利用者にもヘルパーにも負担を強いる結果となりました。

次年度も厳しい運営が予想されますが、「心配だけど、外出を楽しみにしているから」と、私どもに支援を任せてくださる利用者もいらっしゃいます。利用者の生活を守るためにも、万全の対策をしながら、支援を継続する努力を続けてまいりますので、今後よろしくお願いいたします。



共同生活援助かえで 管理者 仲俣 圭

時が経つのは早いもので、日々の業務に追われている内に、もう今年度が終わってしまいます……。やりたかった事、やり残した事等など、管理者として考えればキリがありません。その中で共同生活援助かえでとして振り返ると、昨年末にユニットかえでで入退寮があった事がトピックに挙げられるかと思います。

一昨年のユニット増といった事が無ければあまりグループホームのメンバーが変わる事がないため、利用者にとって良い刺激となりました。また世話人にとっても、新しいメンバーを迎えるにあたり気づかなかった事や気づけなくなっていた事、新しい視点や新しい情報について、改めて考える良い機会となりました。

ユニットかえでのメンバーは先輩として、新しいメンバーに“かえででの生活の秘訣”を色々伝授している様子で、頼もしくまた微笑ましく見えました。

まだまだコロナ禍が続く中、利用者も不便な生活を強いられています。しかし油断は禁物。今まで通り“マスク・手洗い・消毒・換気”を合言葉に、感染予防対策をしっかりしていきたいと思います。

昨年度中は、多くの方々にご協力いただき事業運営をすることができました。ありがとうございました。これからも安全で安心な生活を安定して送れるよう、世話人一同支援をしていきたいと思っています。



そして・・・「あすなろ準備室始動」



あすなろ作業所準備室 支援係長 竹田祐樹

現在、育成会で運営している江東区あすなろ作業所を江東楓の会で受託することとなり11月より施設長、相談の2名からあすなろ作業所準備室が始動しました。私は12月から、1月、2月と事務員、支援員が入り3月からは7名体制で4月に向け準備しています。運営法人が変わるということで、2月中旬～3月中旬にかけ全利用者さんに対して契約の取り直しを行いました。保護者の方々にも多くの書類にサインをいただき、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

12月より引き継ぎしていただいている中で、あすなろ作業所の職員の方の利用者への丁寧な姿勢や言葉遣いとても感心しました。また、利用者の方々にも驚かされました。作業準備で困っている仲間がいたら、サッと準備を手伝ったり、自分の作業の手が空く他の作業のフォローをしたり、周りをよく見てみんなで協力して取り組まれている姿を見ました。あすなろ作業所の職員の方々はとても優しく丁寧に、利用者や私たちのことも考えて引き継ぎを進めてくれ、少し不安に思っていたのですが、とても安心しました。4月まであと1ヶ月、今まで作り上げてくれたあすなろ作業所のカラーも大切にしつつ、楓の会のあすなろ作業所として利用者・家族と職員の皆で色を重ねて行きたいと思います。

令和2年度 後援会会員名簿



<賛助会員> (第44号からつづく)

神子沢 奈月	田崎 幸克	大野 誉仁	岡崎 吉泰	恩田 喜代美
森田 純一郎	橘 孝司	原 隆典	水島 聖子	菅原 拓也
石井 潤子	東條 里香	坂本 夢来	山上 健太	高橋 秀一郎
猪狩 健治	山崎 護	新補 文彦	片桐 湖生	新田 康二
武田 俊彦	萩原 洋	佐々木 緑	平塚 早央里	新田 静子

神子沢 奈月様におかれましては、名前の表記が違っておりました。改めて掲載させていただきますとともに、お詫び申し上げます。

(敬称略、順不同)

(なお、令和 3年 3月 1日以降 賛助会員は次号につづく)

編集後記

会員の皆様には、日ごろから当法人の運営にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。今号は、全施設・事業所が同じテーマでご報告させていただきました。今年度、様々な行事等が中止や縮小等となりました『我慢』の一文字に尽きる今年度だったかと思いますが、本当に皆様のご協力があって、無事に今年度を終えようとしております。まだまだ先が見えない中ではありますが、来年度の今頃は、皆様の笑顔あふれる事柄が多くありますようにあらためて、お祈り申し上げます。一日一日を大切に、「おかげさま」のころでありたいですね。

